

グローバル人材育成プログラムを振り返って

楠 木 阜 生

Koki NARAKI

機械システム工学科 3年

1. はじめに

私は、8月13日から8月31日までの19日間グローバル人材育成プログラムに参加させていただきました。今回はアメリカのサンフランシスコ、サンノゼにて企業訪問ツアー、実務実習を行いました。このプログラムに参加した理由は、一つ目は、海外で働いてみたかったからです。これまでに大学の長期休暇中に海外へ語学留学をしたことはありましたが、海外で働いた経験はありませんでした。そこでこのグローバル人材育成プログラムの、チャンスを活かそうと思い参加しました。二つ目は、将来に役立つような広い視野をもちたかったことです。今後どのようなことがしたいかを考えるきっかけとする目的でこのプログラムに参加しました。三つ目は、英語で積極的にコミュニケーションをしてみたかったことです。これは、自分の英語の能力を試してみたかったことと、職場で使われる英語を肌で感じてみたかったからです。四つ目は、将来、社会人になって海外で活動するために必要なものを見つけたかったからです。私自身は将来、海外で働きたい思いがあるので、このプログラムを通じて自分には何が必要かを探してみたかったからです。

2. 企業訪問ツアー

8月14日にサンノゼの周辺にある企業として、AVAGO, Intel, Plug & Play, Google, Facebook をそれぞれ訪れ、世界でトップを走る有名IT企業などを肌で感じました。訪問する前は、これらの企業は高層ビルをもっているのかと思いましたが、実際はそうではなく、敷地が広いので、低層のビルが何棟も立っていました。中でも Google 本社は敷地が広い

ため、社内で自由に利用できる自転車が置いてあり、またその自転車も Google カラーにペイントされていて、企業の特徴が出ていると感じました。実際に本社の中を詳しく見ることはできませんでしたが、社員食堂は様々な国の料理がすべて無料であったり、ボーリング場があったりして、日本では考えられないスケールに衝撃を受けました。このような最高の環境で仕事をしている人が羨ましいと思いました。

3. 企業概要と実習内容について

実習先の Shinozaki Automotive は、1975年5月に Edmond Shinozaki 氏が創立したカリフォルニア州サンマテオにある従業員数6名の自動車修理場です。そこでは主に以下の(1)、(2)の仕事に従事させていただいたので、それぞれ報告します。

3.1 ブレーキパッドの交換及びスライドピンのクリーニング

車のタイヤを取り外した後、キャリパーボディを取り外しブレーキパッドの厚みを調べ、その厚みが交換の目安である5mm以下であったため、ライニング(摩擦部)に触れないように注意してパッドを交換しました。ブレーキパッドを取り付ける前にシリンダーマウントを取り外し、スライドピンを引き抜いて、シリンダー内、スライドピンの汚れをそれぞれ拭き取りラバーグリスを塗布しました。次にサポートプレートを取り付けるために、ブラシで錆をとってグリースを塗ってからサポートプレートを取り付けました。このとき取り付ける向きを間違えないように気を付けました。取り付け後は、しっかりボルトを締め元に戻しました。

3.2 ファンベルトの交換

ボンネットを開け、オルタネーターの上下のボルトを軽く緩めてベルトを引っ張り、オルタネーターを内側に動かしてベルトを緩めました。ファンベルトの交換は、カバーなどの部品を外さないと交換が

難しいことと、狭いところにボルトがあるため、作業がやりづらいことがありました。新しいファンベルトをかける時は、メガネレンチでクランクを回しながら行いました。最後はボルトを締めすぎないように気を付けて締めました。ファンベルトは、ラジエーターを冷やすために必要なベルトのことであり、他にはオルタネーターを作動させたり、エアコンのコンプレッサーを作動させたりする役割もあり、オーバーヒートを防ぐ他にも重要な役割を果たしています。ファンベルトの交換を怠ると、電気の供給が止まったり、エンジンが停止したり、オーバーヒートをするがあるのでメンテナンスを行うことが重要な部品であることがわかりました。

4. ホームステイについて

私は今まで様々なところでホームステイをしてきましたが、今回のホームステイ先は、WOODFOURというクラフトビールの醸造所と、レストランのオーナーをしている方の家でした。休日にはクラフトビールフェスティバルに連れて行ってもらい、日本ではなかなか味わえない様々なクラフトビールを味わうことができたり、店の手伝いをしながら色々な方々と接することができました。実際に地元の人とのコミュニケーションにおいては自分の英語がうまく伝わらなくても、意志を伝えようとする気持ちを示せば耳を傾けて下さり、とても親切で話しやすかったと感じました。8月26日には10月にあるオクトーバーフェスティバルに向けてのクラフトビール造りの手伝いをしました。実際にどのようにしてクラフトビールを造られているのかを知ることができたり、ビールの奥深さを更に知ることができました。今回の実習だけでなく、ホームステイでも様々な経験ができたのでとても有意義に過ごすことができました。

5. 実習を終えて

英語は、海外でのコミュニケーションのツールであり、自分自身が英語のスキルを向上させることが大切だと感じました。日本のことだけでなく海外のものに興味を示すことや、目標をしっかりと持って行動することの重要性にも気づきました。働くことにおいて気づいた大切なことは「自分から動かないと何も始まらない。」ということです。海外では自分が困っているそぶりをみせても基本的に誰からも相手にはされず、黙っては何も相手に伝わらないので、自分自身から働きかけることの大切さを学びました。

仕事、日常会話、プレゼンテーションをするにあたってコミュニケーション能力は必要不可欠です。私自身は様々な方とコミュニケーションをすることは苦手と感じていて、他の人が様々な話題を取り上げて会話をしているのに、自分は話題がすぐに浮かばないことが多かったので苦い思いをしました。このことより日々の生活の中で色々なことに興味をもち、話題をつくりながらコミュニケーション力を高めていきたいと思いました。

6. おわりに

今回、このプログラムに携わっていただいたAZUSAの皆様、理工学部の皆様、引率していただいた先生、実際に海外の企業の現場での実習をさせていただく大変貴重な機会を与えてくださったShinozaki Automotiveの皆様に変な感謝致します。また、ご多忙中、貴重な時間を割いて実習期間中親切に面倒を見てくださった職員の方々に、深く感謝いたします。海外でしか得ることのできなかったインターンシップならではの経験、成果を、今後の進路、学習に役立てていきたいと思っております。ありがとうございました。